

## 事業計画書

事業名	史跡再建による地域コミュニティの活性化
実施場所	沼津市一本松 要石神社
実施予定期間	平成 30年 4月 2日 ~ 平成 31年 3月 31日

## ◎実施内容

日程	実施項目・作業項目
	<p>近年、地域に点在する史跡整備を進めることにより、地域コミュニティの活性化が図れるということで、史跡整備を進めている地域が増えてきています。</p> <p>新潟中越地震の際には、地域の神社再建が地域コミュニティ再生に不可欠であるとし、これらの再建に復興資金を充て、住民の生活再建に向けた意欲を沸き立たせとの事例などもあり、地域住民の「心のよりどころ」として神社などの史跡整備を地域コミュニティ活性化に係わる施作の一つとして見直しが進んでいます。</p> <p>一本松にある要石神社は、江戸時代の寛永の初めの頃(17世紀)に境内に露出した巨大な安山岩を地震災害除けの守り神とし、1月・5月・9月のそれぞれ27日、年3回の祭りが開催されているものの、神社の歴史を示す表示版も擦れるなどして、整備がおぼつかない状況となっています。</p> <p>また、祭りの主体となる地域コミュニティについても、人口の減少や単身世帯の増加を起因とした気薄化が進展し、祭事を担う住民が減少してきていることから、当地域の史跡である要石神社の整備を進め地域活性化の拠点として活用していきたいと考えています。</p>
	 <p>実施項目（既存の祭事業以外に新たに次の事業を実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要石神社の案内(要石神社の由緒)の整備 魅力ある石碑建立を地域内で検討し整備する。</li> <li>・要石神社の歴史(過去の祭事状況を再確認する) 昭和51年に製作した「私たちのふるさと一本松」ビデオ鑑賞の実施</li> <li>・要石神社の歴史を学ぶ勉強会・町歩きの実施</li> <li>・定期的な清掃・軽微な修繕の執行体制の構築する</li> <li>・原地域内の他の歴史と連携した「町歩き」ルートの構築</li> <li>・要石神社までの案内板の整備(地域住民以外へのルート案内板製作) ※右左折⇒要石神社まで約700m 徒歩10分程度等々</li> </ul> 
	<p>スケジュール</p> <p>4月 石碑のデザイン検討</p> <p>5月 5/27祭礼 清掃活動 「私たちのふるさと一本松」ビデオ観賞会</p> <p>7月 地域内住民・児童生徒を対象にした勉強会・まち歩きの実施</p> <p>9月 9/27祭礼 清掃活動 「石碑」の除幕式の検討 原地区全体にPR活動</p> <p>1月 1/27祭礼 清掃活動</p>

## ◎事業効果

本事業は、史跡整備をきっかけとした、地域コミュニティによる保全体制の構築と、他の史跡と連携した「まち歩き」ルートの構築であり、これらの取り組みを発信していくことにより、市内外の人たちに「原地区を訪問し歩きたい」という意識の醸成につなげていきたいと考えています。

また、地域住民が、自分の地域の歴史を実感することは、新たな視点からの「地域の魅力」情報の発信に繋がり。結果として人口減少が進んでいる当地域の交流人口の確保が見込まれます。

## ◎評価の視点に合致していることの説明

公益性	地域内の史跡整備と保全体制の構築により、地域コミュニティ内の世代間交流が促進され、地域の愛着やコミュニティ活動の活性化に寄与することができます。 昭和51年に製作した「私たちのふるさと一本松」記録ビデオを地域住民で観賞し、昔をなつかしむでなく今の時代にたりないものはなにか、賑わいつくりのヒントになれば更なる活性化につながると思います。
発展性	史跡の継続的な保全、史跡を活用したコミュニティの構築については、地元自治会等を中心に取り組みを進めていく。 また、要石神社を拠点として、地域内の史跡を周回する「まち歩き」ルートの構築にもつながると考えています。(要石神社・浅間神社・掘割の後・千本松原内国道一号線建設回避石碑等々)
地域性	地域内の自治会、民生児童委員、地区社協との連携を深め、史跡の保全活用について検討を進めていく。
必要性	規模の大きい史跡等については、行政の支援により整備が行われているものもありますが、小規模の史跡については手付かずの状況であり、これについては地域主体で対応していくしかないのが実情です。 しかし、地域のコミュニティの気薄化が進み、人間関係の疎遠となるだけでなく、地域内の遺物・史跡・文化財などを知る機会が大きく減ってきています。 そのため、本事業をきっかけに地域内の多様な主体が地域運営に参画するシステム作りが必要です。
先導性	地域コミュニティ活性化について、祭り等のイベントを開催するという事例は多く見受けられますが発展性にかける(イベント開催で終了)ものと考えています。 本事業については、当地域にしかない史跡整備をきっかけとした、まちの活性化を図る取り組みであることから、地域ならではの活用方法を検討することができます。
継続性	本事業終了後は、地域コミュニティを構成する自治会、民生児童委員、地区社協、社の会など、多様な主体と連携し協調行動が継続できるシステムの確立に努めていきたい。
特に高い公益性を有することの説明	これまで関係者主体で進められてきた史跡の整備・活用について、広く地域住民が参画できる仕組みを構築するとともに、史跡を活用したまちづくりを進めていくことにより、更なる地域コミュニティの活性化を図ることが見込まれる。 また、新しい住民の参画により、地域のイベントのみではなく、福祉・環境など幅広い分野において、地域コミュニティの活動を拡大していくことが可能である。

